

【必須問題と選択 A】

(統計を除く心理学の問題のみ解説しています)

No. 1 自殺や自傷行為に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 4

解説: 自傷と自殺企図の違いについては、専門的な知識がなくとも、臨床心理学の基礎的な知識があれば、その知識に基づいて推測できそうである。標準的な問題。

1. × 自傷行為を行う者は多様であり、「大半は演技的・操作的」ともいえない。他人に知られないように自傷行為を行う者もある。初期対応として「自傷行為をやめるよう説得し、やめることを約束させる」のも効果的ではない。創傷に対しては手厚くケアし、過度に同情的にならず、冷静に穏やかに本人の話を聞くことが望まれるという。
2. × 自傷行為の最中には、むしろ痛みを感じないことが報告されている。むしろ、感情的な苦痛を和らげるために自傷を行うとされる。
3. × 自殺企図と自傷行為の意図の説明が反対である。また、自殺意図のない自傷行為を行った後に自殺企図に及ぶ人も「極めてまれ」ではなく、自殺企図から自殺既遂にいたることもあるという。
4. ○
5. × 自傷行為は感情的苦痛が背景にあることが多いため、置換スキルを用いることも有用である。

文献: 林直樹編 2006 こころの科学 127 自傷行為 日本評論社

APA (高橋三郎・大野裕[監訳]) 2014 DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル 医学書院

No. 6 非侵襲的脳機能研究法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 3

解説: 講義で扱ったところである。各手法の特徴と BOLD 効果を押さえていれば正答が出せる。

1. × 一文目は妥当。ERP は、当然だが、脳波を加算平均する必要がある。
2. × 一文目は妥当。放射線の被曝があるため、同一対象者に短期間に何度も実施できない。
3. ○ 脳機能が活発な部位は血液中の酸素の消費が多いことは誰でも知っていると思うが、その酸素量の変化を利用しているのが BOLD 効果である。これは酸素化ヘモグロビンと脱酸素化ヘモグロビンの割合を測定するものである。
4. × 一文目は妥当。検出される信号が脳脊髄液、頭蓋骨、頭皮を通過するために、空間分解能が劣るのは ERP の方である。MEP はこれらの影響を受けないため活動部位の推定は容易かつ正確になる。時間分解能は、MEP も ERP も高い。
5. × 一文目は妥当。NIRS の時間分解能は 100m 秒単位、脳深部は測定できない。対象者を拘束する必要がないため、自然な状況下で測定ができる。

文献: 小嶋祥三・渡辺茂 2007 脳科学と心の進化 岩波書店

No. 7 次の記述のうち、A~D に当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

正答： 1

解説： 英文だが、キーワードを拾えば、本文を愚直に読まなくとも選択肢を吟味するだけで正答が出せる。

A 「聴覚的メッセージの選択的注意の理論(theory of selective attention for auditory messages)」で、Broadbent と特定できる。著作を知っていれば「A Mechanical Model for Human Attention and Immediate memory(1957)」で決まりである。

B A に入るのが Broadbent の選択的注意の理論とわかれば自動的に、limited capacity に決まる。

C 空欄を含む文は、「彼が勧めたのは、行動主義者の用語(behaviorist language)である C を情報処理の用語に置き換えることであった」とあるので、この文脈から「刺激と反応(stimulus and response)」となる。

D 著作のタイトルが「マジカルナンバー7±2, 情報処理容量の限界」となっているので、ここに Miller が入る。

No. 8 次の記述のうち、A~E に当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。ただし、解答に使用する語句は、必要に応じて複数形になるものとする。

正答： 1

解説： 大脳皮質の視覚細胞の受容野には、特定の方向(傾き)に選択的に反応するようになっているが、これが初期の視覚環境に影響を受けることを実証した、Blakemore & Cooper (1970) による有名な古典的実験。実験の概要は次の通り。なお、この実験については、鹿取・杉本・鳥居(2015)のp.56のコラムにも説明がある。

生まれた直後の子猫を暗室で育て、2週から5か月までのあいだ、1日5時間、円筒の装置に入れて過ごさせた。円筒の中は、白黒の縞模様になっており、一方は縦縞(垂直方向の縞)、もう一方は横縞(水平方向の縞)である。子猫は黒いカラーを首につけ、自分が入れられた円筒の縦または横の縞模様以外は見るできない。5か月後から猫を外に出し、行動を観察した。横縞の環境で育った猫は横縞以外に反応せず、縦縞で育った猫は縦縞にしか反応しなかった。皮質細胞の受容野を調べたところ、前者は縦方向、後者は横方向に最適方向の分布が偏っていた。

A： 初出の該当箇所のみ訳す。「それぞれの子ネコは、垂直か水平かのただ一つの(A 方向 orientation)に曝された」

B 及び C： 初出の該当箇所のみ訳す。「垂直縞の環境で育てられた子ネコは、(B 垂直の vertical)棒に注意を払い、(C 水平の horizontal) 棒には注意を払っていないようであった」。

D： 初出の該当箇所のみ訳す。「続いての行動テストにおいて、Blakemore と Cooper は、(D 視覚皮質 visual cortex)の細胞から記録を取り、各細胞から最も大きい反応を引き起こす刺激(A 方向 orientation)を決定した。

E： 初出の該当箇所のみ訳す。「子ネコの(D 視覚皮質 visual cortex)のニューロンの(A 方向 orientation)

選択性と、子ネコの同じ(A 方向 orientation)に対する(E 行動的 behavioral)反応との対応は、特徴検出が(A 方向 orientation)の知覚に関係しているという、さらなる証拠を提供する」

No. 9 次の記述のうち、A~D に当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

正答: 3

解説: 図がそのまま解答になっているので、比較的容易である。同化と対比については、やはり鹿取・杉本・鳥居(2015)の口絵に図があるので参考にするとよい。

- A 図を見ればすぐに分かると思うが、これは「同時対比(simultaneous contrast)」である。「明るさの対比」とも呼ばれる。
- B 初出の該当箇所を訳す。「もう一つの現象、(A 同時対比 simultaneous contrast)と比べて逆説的に見える効果が、B(同化 assimilation)である」。つまり、「対比」とは逆にみえる知覚現象といえ、同化」しかない、直ちに答えが出る。
- C 初出の該当箇所を訳す。「中間的な輝度の中間色の背景は、重ねられたパターンが白い線(背景よりも明るい線)で構成されているならば、(C 明るく brighter)見える」
- D 初出の該当箇所を訳す。「他方、同じ背景が、パターンが黒い(低い輝度の)線で構成されていれば、(D 暗く darker)見える」

No. 10 感覚に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 2

解説: 閾値や精神物理学的測定に関する基本問題。易しい。

1. × 絶対閾を境に感知率が0%から100%になることはない。
2. ○ ミュラー・リヤー錯視の主線を、同じ長さに見えるように自身で調整する場合を考えるとわかりやすい。
3. × Weber の法則は、 $\Delta I/I = k$ (一定)であり、弁別閾は刺激強度に比例する。
4. × 一文目は妥当。二文目、明るさと電気ショックの説明が反対。明るさよりも電気ショックの方が感覚の変化が大きい。
5. × 一次関数ではなく、 $E(\text{感覚量}) = k \log I(\text{刺激量})$ (感覚量は刺激量の対数に比例する)という対数関係である。

No. 11 学習に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 4

解説: 定番のトピックばかりである。易しい。

1. × 三文目が誤り。試みと不成功(試行錯誤)ではなく、「洞察」によって問題解決に至ったと考えた。
2. × 一文目は妥当。二文目は「自動反応形成」ではなく、単にオペラント条件づけの手段である。「自動反応形成(autoshaping)」とは、条件刺激(キーの点灯等)と強化子の対呈示を繰り返すことによって、反応に伴って強化子を提示することなしに、動物が自動的にキーをつつくなどのオペラント反応を

起こすようになることである。

- 3. × 一文目は妥当。二文目, 予言の自己成就ではなく, 「迷信行動(superstition)」である。
- 4. ○ 味覚嫌悪条件づけについての記述である。
- 5. × 一文目は妥当。学習性無力感は, ヒトでも生じる。

No. 12 次は, レスコラ=ワグナーモデル(Rescorla-Wagner model)に関する記述であるが, A, B, C に当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

正答: 5

解説: 隠蔽と阻止に対する知識が必要。標準的な問題。

- A 隠蔽とは, 複合条件づけにおいて, 強いCSが, 弱いCSとUSとの連合形成を阻害することである。同程度の強度の2つのCSを用いる場合は, 両者が同程度に相互に隠蔽しあう(相互隠蔽効果)ことになり, それを表しているのが図2である。
- B 阻止とは, 2つのCS(AとX)を用いた複合条件づけに先立って, AとXのどちらか一方(たとえばA)をUSと対提示しておく, 複合条件づけ後のテストで, 残りの一方のCS(X)にはほとんど条件づけが生じないことである。それを表しているのが図1である。
- C 過剰予期効果は, レスコラ=ワグナーモデルの予測によって発見された現象である。つまり, 複合条件づけ開始時に2つのCSが予期するUS量は実際に提示されるUS量の2倍という過剰予期の状況となる。したがって, 2つのCSを合わせて適切なUS量となるように各CSに対するCRは弱くなると考えられる。

文献: 実森正子・中島定彦 2000 学習の心理 サイエンス社

No.13 虚偽検出に関する記述A~Dのうち, 妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

正答: 2

解説: ポリグラフの知識が必要であるが, 常識を働かせれば消去法でも行けるか。

- A. × 一文目は妥当。二文目, 一つの生理指標のみが特異な反応を示すこともあり, それによって虚偽があると判断することも可能である。
- B. × 一文目は妥当。二文目, 虚偽の指標として, いわゆる「裁決質問」提示後に, 呼吸時間が増加する(呼吸が遅くなる), 呼吸の振幅が減少する(呼吸が浅くなる)ことが指摘されている。
- C. × 一文目は妥当。二文目, 随意的に統制することも可能であるため, 意図的に操作されることもある。
- D. ○

文献: 宮田洋(監修) 1997 新生理心理学 北大路書房

No. 14 知能や認知の理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 5

解説: 少なくともCHC理論かDN-CASかどちらかの知識があれば正答を選べる。

1. × Spearman は知能の二因子説を唱え、知能を、g 因子(一般因子)と、それぞれの課題ごとに固有の s 因子(特殊因子)とで説明した。
2. × 流動性知能と結晶性知能は Cattell である。なお、加齢によって衰退しにくいのは結晶性知能の方である。
3. × DN-CAS 認知評価システムは、Das が Luria, A. R.の研究に基づいて作成した検査法である。
4. × Das は人間の情報処理が、「プランニング(Planning)」、「注意(Attention)」、「同時処理(Simultaneous)」、「継次処理(Successive)」の4つからなると考え、PASS 理論を提唱した。これらを実行する検査が DN-CAS である。
5. ○

No. 15 高齢者を対象に実施された実験・調査に関する記述ア~エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答: 4

解説: 常識の範囲で正答を推測するには限界がある。ある程度研究を知っている必要がある難題。

ア. × Rowe と Kahn によれば、サクセスフル・エイジングの構成要素は、①「病気や障害が軽い(少ない)こと」、②「身体機能や認知機能が高いこと」、③「社会参加していること」の3つである。

イ. ○

ウ. ○

エ. × Alpaugh と Birren(1977)によれば 20 歳から 83 歳の対象者に Gilford の創造性テストを行ったところ、知能では若い人と高齢者で違いがなかったが、拡散的思考の得点は高齢者が劣るという結果がでた。

文献: Alpaugh, P. K. & Birren, J. E. 1977 Variables affecting creative contributions across the adult life plan. Human Development, 20, 240-248.

岩原昭彦 2018 サクセスフル・エイジングとオプチマル・エイジング, 心理学ワールド 82, 5-8.日本心理学会

No.16 言語に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 5

解説:

1. × 一文目, Skinner といえば、「オペラント条件づけ」である。二文目は、「マンド」ではなく「タクト」が正しい。「マンド」は要求の言語機能を持つ語のことである。
2. × 二文目, 言語の発現は, Piaget によれば, 具体的操作期ではなく, 前操作期からである。
3. × 本選択肢は, 言語の自己調整機能についてであり, Vygotsky の外言とは少し違う。外言とは, 音声を伴う言語であり, 他者とのコミュニケーションの道具としての言語のことである。
4. × Tomasello によれば, 語彙獲得は共同注意等の認知発達の影響を受ける。Tomasello の文化的学習の概念も確認のこと。

5. ○

【認知心理学】

No. 36 意識に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答： 2

解説： 講義で学んだ知識があれば正答は難しくはない。

1. × 4 文目, 覚醒時の脳波は振幅が小さい。睡眠段階が深くなるにつれ振幅は大きくなり, 周期が長くなる。5 文目, 睡眠段階が不快時点で見られるのは θ (シータ)波である。

2. ○

3. × 形態型失認を示した症例 D. F. は, 板の形を知覚できない(板を見てその厚さを親指と人差し指で示すことができない)にもかかわらず, 親指と人差し指でその板を積み上げるときは自然に指の形が板の厚さになっていた。つまり, 刺激の大きさを手がかりとして運動課題を行うのに, 意識的に刺激を知覚する必要はないことが示された。

4. × 離断脳(分離脳)の実験。二文目, 正しく書き換えると次の通り。「『右視野』に提示された物については答えられた一方で, 『左視野』に提示された物については答えられないだけでなく, 刺激が提示されたという意識すらもたないことがあった。これは『右半球に言語野における処理がなされなかったためである』」。

5. × Zajonc の感情先行説(感情の生起に関して必ずしも対称の認知が先行する必要はないという説)を早期のこと。二文目, 単純接触効果が生じるには, 刺激が必ずしも顕在的に意識される必要はない。三文目, Zajonc は, 対象の認知は「好ましさ」という感情の生起に先立つ必要はないとした。

文献:(選択肢 3 について)岡田隆・廣中直行・宮森孝史 2016 生理心理学第 2 版 サイエンス社 p.238

No. 37 次は, ニューウェルとサイモン(Newell, A. & Simon, H. A.)の「一般問題解決プログラム(General Problem Solver: GPS)」に導入された基本メカニズム「手段-目標分析(meansend analysis)」によって「ハノイの塔」問題を解く手順の説明に関する記述である。解法過程の現在の状態を図の「状態 A」とするとき, 「手段-目標分析」によって「ハノイの塔」問題を解く手順として方略 A~キのうち, 三つを並べたものとして最も妥当なのはどれか。

正答： 3

解説： ハノイの塔と GPS を知っていれば容易であるが, 問題が求めているものがわかりにくいかもしれない。要するに, 本問では, 図の「状態 A」から「状態 C」への移行の際に, GPS ではどのようなステップを踏むか,を問うている。

ポイントを整理すると以下の通りである。

GPS によれば, 問題を解くことは, 「状態空間(問題空間)中で初期状態から目標状態へいたる操作子系列を発見すること」である。

- ・初期状態： 問題を解く前の状態
- ・目標状態： 問題を解決した状態

- ・操作子：空間内で状態を移動する手続
 - ・手段-目的方略：目標状態との差異がもっとも小さい状態になるように操作子を選ぶこと。
 - ・副目標設定方略：目標状態から逆算して副目標を設定する方略のこと。つまり、手段-目的方略のみでは、目標状態に到達できないこともある。そこで、いったん目標状態から遠ざかるような手順が必要な場合、この副目標設定方略が用いられる。
- 上記をふまえて、ハノイの塔のルール(規則)に従えば、イ→エ→キの順になる。

No. 38 視覚的注意に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答：3

解説：「復帰抑制」, 「注意の瞬き」など、過去に出題された数々の注意の問題が取り上げられている。

講義で動画を用いて紹介した「変化盲(Change Blindness)」, 「非注意による見落とし(Inattentional Blindness)」も出ている。復習をちゃんとしていれば、正答は容易であろう。

1. × 注意の「復帰抑制」では、先行手がかりと標的の提示時間間隔が300ミリ秒を超えると、有効条件の方が反応時間が長くなる。
2. × 「注意の瞬き」とは、第一標的の提示直後から約500ミリ秒にわたって第二標的の有無の判断に失敗する現象である。
3. ○ 「非注意による見落とし」は、講義で紹介した、invisible gorillaと同様である。
4. × 一文目は正しい。Posnerら(1994)によれば、右視野に提示された標的に対しても反応時間が遅れるのは、注意機能全般の低下ではなく、右頭頂葉損傷が、注意の焦点を開放する操作を阻害するためと考えた。
5. × 「変化盲(変化による見落とし)」は、画像Aと画像Bとを交互に提示するとすぐに変化を検出できるが、AとBとの間に空白画像をはさむ場合は、変化がみつけにくくなる現象である。

文献：Posner, M. I. & Raicle, M. E. 1994 Images of Mind, Scientific American Library.(養老孟司・加藤雅子・笠井清登(訳) 1997 脳を観る 認知神経科学が明かす心の謎 日経サイエンス社

No. 39 次は、トールマン(Tolman, E. C.)によるラットの実験に関する記述であるが、A~Dのうち、この実験からトールマンが主張した内容として妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

正答：5

解説：新行動主義のTolmanがどういう立場かをHullとの対比で理解していれば、問題文は読まずに選択肢だけみて、BとDを選ぶことができる。

本問の選択肢は、AとB、CとDが対になっており、一方がHull、他方がTolmanの学習観である。

Tolmanは、十字や放射状の迷路学習の実験から、ラットが、方角などを手がかりとした包括的な地図の学習をすることを実証した。Tolmanのラットの迷路学習は「認知地図」の学習といわれるゆえんである。つまり、Tolmanにとって学習は「知識」の学習である。したがって、選択肢BとDがTolmanである。これに対してHullは、迷路学習においてラットは、スタートからゴールまでの通路をS-R結合の積み重ねで学習すると考えた。ゆえに、選択肢AとCはHullである。

数年前まで頻出だった、Tolman の潜在学習の実験もあわせて確認しておきたい。

No. 40 次は、概念(形成)の理論(theories of categorization)である「ad hoc category」, 「classic view of categorization」, 「exemplar theory」, 「explanation-based theory」, 「prototype theory」についての記述であるが、このうち「prototype theory」に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 2

解説: 概念の理論の勢揃いである。決め手となるキーワードさえ拾えれば、英語が苦手でも正答を出すのは容易である。

1. × 定義的特性理論 (classic view of categorization)である。「規則の体系に基づいてカテゴリーを使用する」「あるものが、ある規則のセットを満たせば、あるカテゴリーの成員となり、満たさなければ、そのカテゴリーの成員ではない」といった記述が手がかりである。
2. ○ プロトタイプ理論(prototype theory)である。「プロトタイプとは、本質的に、そのカテゴリーの中心的な、核となる事例である」が手がかりとなる。
3. × 事例モデル(exemplar theory)である。「人がカテゴリーについて考えるとき、かつて経験したことのあるそのカテゴリー個々の事例を考慮に入れる」などが手がかりとなる。
4. × アドホックカテゴリー(ad hoc category)である。「人が状況に基づいて作り出すカテゴリーである」「燃えているビルから連れ出す物というカテゴリーを考えれば、テレビではなく赤ちゃんがこのカテゴリーにふさわしい成員である」などが手がかりとなる。
5. × 理論ベースモデル(explanation-based theory)である。「意味論的なカテゴリーは本質的に、人がなぜ物事がそうであるかの説明を作り出す理論である。」「靴とレンガは、ハンマーを持ってないときにくぎを打つ物という意味で、同じカテゴリーと言える」などが手がかりとなる。

【臨床心理学】

No. 41 DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)における、自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害(Autism Spectrum Disorder: ASD)に関する記述ア~エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答: 4

解説: 定番の問題である。Kanner, Rutter などある程度歴史的な経緯を知っていないと解きにくい。

ア. × 「広汎性発達障害」という命名は Kanner によるものではない。また Kanner は、自閉症児の両親の性格や養育態度に特有のパターンがあることを指摘した。

イ. ○ この、Rutter の考え方は「言語・認知障害説」と呼ばれる。

ウ. × 女性より男性の方が4倍多く診断される。

エ. ○ ASD の診断基準における、DSM-IV での三因子モデル(「Wing の三つ組」とほぼ同じ)から DSM-5 での二因子モデルへの変更は最も注目すべきところである。

No. 42 動機づけ面接(Motivational Interviewing)に関するミラーとローレンツィック(Miller, W. R. &

Rollnick, S., 2002)の記述として最も妥当なのはどれか。

正答： 3

解説： 本問は、動機づけ面接の知識があったとしても、選択肢の英文をある程度読まねば解けない問題。ものすごくざっくり言うと、動機づけ面接とは、相手に知識を教えたり説得したりして行動を変えようというのではなく、相手のよい理解者となり、相手が行動を変えたい気持を引き出していく技法を用いる面接である。

動機づけ面接は矯正の現場等々でも取り入れられているので、必ず確認しておくこと。以下、選択肢を簡単に訳す。

1. × 認知行動的、共感的カウンセリングのスタイルは、動機づけ面接の一つの根本的、決定的な特徴である。Aaron Beck が述べたような傾聴や的確な共感といった治療的スキルを、動機づけ面接におおける臨床的な熟練が成り立つ土台であるとみなす。
2. × 動機づけ面接の一般的原理の一つは、クライアントの視点から、クライアントの現在の行動と彼(彼女)のより大きな目標や価値との間の一貫性をつくりだし、増幅することである。一貫性は、現在の行動のしかたにかかるコストへの気づきと不満によって、そして行動を変化させることのアドバンテージへの気づきによって、維持される。
3. ○ 変化を引き起こす立ち位置からして最も望ましくない状況こそ、クライアントが反論したとしても、カウンセラーが変化を働きかけるべきである。といった議論は逆効果である。説得されたがらないアンビバレントな個人だけではなく、直接の議論は実際に人を逆方向に押ししてしまう。
4. × 動機づけ面接は個人の変化への開かれを評価する。それは規範的なアプローチであり、カウンセラーは個人を変えるための動機づけや資源を徐々に教え込んでいく。どの個人も変化への強い潜在力を持っている。カウンセラーの課題は、その潜在力をたきつけ、個人にあった変化のプロセスをつくりだすことである。
5. × 動機づけ面接は、容易に学ぶことができる技法のセットである。個人の肯定的な行動の変化を抑制するような動機づけの問題を解決するようにデザインされている。動機づけ面接の真髄をふまえたより簡単な技法が、訓練やコンサルテーションの時間が限られる状況に合わせて開発され、動機づけ面接の方法が分かるようになっている。

No. 43 心理検査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答： 5

解説： 易しい。

1. × 項目の配列は難易度順ではない。順序を変えてもよい(実際に、女性の被検査者などではいきなり第1問で、「年齢は」と聞かれて不機嫌になって検査に協力的でなくなることもあるらしい)。
2. × 解答の妥当性を問う項目はない。
3. × 分析に当たって、背後にある動機は考慮しない。
4. × 一文目は妥当。二文目、受験態度の歪みは妥当性尺度によって行い、T得点云々は関係ない。
5. ○ ただし、現在では、DAMは知能検査としての妥当性は疑問視されている。

No. 44 精神疾患の治療に関する記述 A~D のうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答: 1

解説: 心理療法(認知療法, 行動療法等)についての標準的な問題。

- A. ○ ここでいう家族介入法は, 家族に対する心理教育とも関連する。
- B. × 二文目, 曝露療法(エクスポージャー)は「パニック症の再発率が高い」が誤り。パニック障害, 広場恐怖等には, 不安階層表を作成して脅威の少ない刺激から徐々に進める曝露療法に効果があることが実証されている。EMDR は PTSD の治療法の一つとして効果が指摘されている。
- C. ○ 精神医学では一般に, うつを「前駆期」「極期」「回復期」「中間期」という四つの病相に分ける(関谷・下山, 2011)。「極期」であれば, 休養が最も重要であり, 薬物療法も併用する。認知療法が有効とされるのは「回復期」とされる。
- D. × 一文目は妥当。二文目, 一度で治療が完了することはない。

文献: 下山晴彦(編) 誠信心理学辞典(新版)

関谷透・下山晴彦 2011 うつ 家族ができること 池田書店

No. 45 被虐待経験との関連が指摘されている, DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)における精神疾患やパーソナリティ障害に関する記述 A~D のうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答: 5

解説: DSM-5 における各障害の知識が必要である。標準的な問題。

- A. × 三文目, 「境界性」の由来が誤り。もともとは「精神病」と「神経症」の境界という意味合いから来ている。
- B. × 三文目が誤り。両者とも, DSM-5 によれば「少なくとも 9 か月の発達年齢」で診断され, 特に反応性アタッチメント障害は 9 か月~5 歳の間, 脱抑制型対人交流障害は「生後 2 年目~思春期」が重視される。
- C. ○
- D. ○

【教育心理学】

No. 51 教育における評価に関する記述 A~D のうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答: 1

解説: 教育評価としては古典的で定番の問題。この分野が未習だと厳しい。

- A. × 順序的にいえば, 診断的評価, 形成的評価, 総括的評価の順である。形成的評価は, 学習指導の途中でなされるものであり, 学習者の理解度を確認し, 指導法の改善等に役立てる等の目的で行われる。指導の開始時に行われるのが診断的評価, 指導の終了時に行われるのが総括的評価である。
- B. ○ ルーブリックとは, 学習者の達成度を判断する基準を示したものであり, ポートフォリオ評価などの, いわゆるリアルな課題, パフォーマンスの評価において用いられる。

- C. × 相対評価と絶対評価の説明が反対である。
- D. × 一文目のハロー効果の説明は妥当。二文目、好ましくない特徴であっても同様に、それ以外の面に対する評価に影響する。

No. 52 障害のある児・者に対して行われる支援などに関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答： 2

解説： 発達障害児に対する支援に関する標準的な問題。

1. × 応用行動分析はオペラント条件づけに基づく。
2. ○ TEACCHもまた、行動療法(オペラント条件づけ)をその基盤としている。
3. × 三文目、薬物療法を行う場合、行動療法も並行することが望ましいとされる。なお、メチルフェニデート徐放剤とは、コンサータのこと。
4. × 二文目、説明が反対。もともとは、脳性まひ児の肢体不自由の改善を目的とした動作訓練であったものが、今日ではASD児やADHD児への発達援助に用いられている。
5. × ペアレント・トレーニングとは、まず、子供の障害に対する理解を深め、より円滑に日常生活が送れるような具体的対処法を、養育者が身につけるためのプログラムである(北, 2010)。一般に、発達障害の子供を持つ家族は、子供の行動の中の悪い面に注目しやすくなるため、悪循環により状況が悪化しがちである。そこでペアレント・トレーニングによって、その悪循環を断ち切るというわけである。

No. 53 次は、ジーマーマン(Zimmerman, B. J.)の自己調整学習に関する記述であるが、A~Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

正答： 4

解説： 自己調整学習(自己制御学習)の基本を知っていれば、キーワードをあてはめるだけで正答が出せる。標準的。ざっと訳すと以下の通りである。

人間は、自分の行為のスタンダードというものを設定する傾向がある。言い換えれば、自分のパフォーマンスを評価する規準を決定するということである。人はまた、ある種の目標を設定して、そこに価値を置き、そこに向けて行動する。スタンダードに合わせ、目標に到達することは、われわれに大きな自己満足をもたらし、(A: 自己効力 self-efficacy)を上げ、われわれを高みに押しやる。

生徒はふつう、目標に向かって努力することにより動機づけられている。そして、他人に目標を押し付けられるよりも自分で設定した場合の方が、それを達成しやすい。そこで、生徒の(B: 自己調整 self-regulation)を伸ばすためにできることは、生徒が自分で目標を立てる状況を設定してやることである。

(B: 自己調整)で重要なのは、行為中の自分を観察することである。そのプロセスは、(C: セルフ・モニタリング self-monitoring)として知られる。(ここから次の段落まで略)

家でも学校でも、生徒の行動はしばしば他者、つまり親や教師、クラスメートなどに評価される。自己調整的になるためには、しかしながら、生徒は自分の行動を自分で評価せねばならない。言い換えれば、生徒は(D: 自己評価 self-evaluation)にかかわらねばならない。ある程度の客観性と正確さを持つ

って自分自身を評価する能力は、後の大人の世界における長い目で見た成功のために決定的なものとなるだろう。

No.54 青年期の認知発達に関する記述ア~エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答：3

解説：「青年期の認知発達」に焦点をあてた問題は珍しい。Selman の視点取得についての知識があれば、あとは常識に基づく推論で、正答が出せるように思われる。

ア. × Piaget の形式的操作についての主張は、「その後の研究でも追認され、広く支持されている」が誤り。

イ. ○

ウ. ○

エ. × Giedd によれば、判断や抑制を担う前頭葉は、他の部位よりも成熟が遅い。それに対して感情を生み出す大脳辺縁系は思春期に成熟する。このずれが、青年期の行動における、短期的な報酬刺激への反応等が生じやすくなるという。

No.55 教育心理学の歴史に関する記述ア~エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答：2

解説：今年度は、心理学史の問題が出なかったが、教育心理で歴史の問題がでた。そういう新趣向なのか。本問は、Meumann を知らなくても、誤答の決め手になる選択肢があからさまなので、正答はすぐに導ける。その意味では易しい。

ア. ○

イ. × 20世紀初頭に世界で初めての知能検査を開発したのは Binet である。

ウ. ○

エ. × ウェクスラー式知能検査ではなくビネー式。

【社会心理学】

No. 96 認知的不協和理論や態度変容に関する研究についての記述として最も妥当なのはどれか。

正答：1

解説：それぞれの研究を知らなくても、認知的不協和や態度変容の知見を理解できていればすぐに正答が選べる。易しい。

1. ○

2. × 厳しい入会儀礼を受けた実験参加者ほど、入会後に当該クラブに対する魅力は低減しにくい。

3. × 報酬が少ない実験参加者の方が、当該課題が実際に面白かったと評定する傾向があった。

4. × 小さい罰を与えられた実験参加者の方が、当該おもちゃへの執着を低減させやすかった。

5. × 主張①ではボタン押し回数とタバコの本数に負の相関、主張②では正の相関が認められた。

No. 97 信頼や社会関係資本に関する記述ア~エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

正答: 4

解説: 山岸俊男の「安心と信頼」の概念を知らないといけない。

ア. × 本選択肢の記述は、山岸のいう「安心」である。山岸によれば「信頼」は、社会的不確実性が存在している(相手の行動によって自分に損失や害がもたらされうる)にもかかわらず、相手の人間性ゆえに、相手が自分に対してひどい行動はとらないだろうと信じていることである。

イ. ○

ウ. ○

エ. × 橋渡し型(架橋型)と結束型の説明が反対である。なお、社会関係資本(social capital)は、テキスト等では、カタカナで「ソーシャル・キャピタル」と書かれることもあるので注意すること。

文献: 山岸俊男 1999 安心社会から信頼社会へ 中央公論社

日本社会心理学会編 社会心理学事典 丸善

No. 98 トヴェルスキーとカーネマン(Tversky, A. & Kahneman, D.)によるプロスペクト理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 4

解説: 最低限、フレーミング効果の知識があれば正答が出せる。フレーミング効果は近年は認知心理学のテキストに必ず紹介されているので、その意味では容易である。

1. × リスク・イメージの因子は Slovic, P.によれば、「恐ろしさ」、「未知性」、「災害規模」であり、特に前二者が安定的な因子であるという。一般に、「恐ろしさ」と「未知性」イメージの両方が高いものについて人はそれらの規制を強く望む(岡本, 1992)。

2. × Iyengar & Lepper (2000)の実験。「選択によって生じる後悔のリスクの増大」ではなく、「選択肢が多くなることによる選択にかかる負荷(choice overload)」によるとしている。

3. × いわゆる「AIDMA」のことである。広告が「反復的に露出されることで記憶される」が妥当ではない。広告を反復的に露出(提示)するのは単純接触効果であり、これは記憶に働きかけるものではなく、好感度を上げるものだからである。

4. ○

5. × Fishbein, M.の多属性態度理論(multiattribute theory of attitude)は、次の式で表される。

$$A = \sum_{i=1}^n b_i e_i$$

(A: 態度, b_i : 対象の属性についての信念, e_i : 対象の属性についての評価)

このような加算型のモデルは、「補償型」と呼ばれる。つまりある属性の評価値が低くても、他の属性の評価値が高ければ、補われて総合的な評価なされる(竹村, 2009)。これにたいして「非補償型」と呼ばれる決定方略([竹村, 2009, p.159]を参照のこと。)は、選択肢や属性を検討する順序が結果に影響する。このため、本選択肢のモデルは、基本的には、情報検索の順序は考慮する必要がないはずののだが……。現実の購買場面では順序が関係あるということか。

文献:

Iyengar, S. S. & Lepper, M. R. 2000 When choice is demotivating: Can one desire too much of a good thing? Journal of Personality and social psychology, 79, 995-1006.

岡本浩一 1992 リスク心理学入門 サイエンス社
 小川一夫(監修) 1995 社会心理学用語辞典 北大路書房
 竹村和久 2009 行動意思決定論 日本評論社

No. 99 判断や推論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

正答: 5

解説:

1. × 一文目は妥当である。二文目, No.37でも出てきたNewellとSimonのGPSについての記述。「後ろ向きの解決法」とは副目標設定方略であり, ヒューリスティックである。
2. × 一文目は妥当である。二文目, 係留と調整のヒューリスティック(anchoring and adjustment heuristic)である。利用可能性(availability)ヒューリスティックとは, その出来事をどれほど思いつきやすいかでその生起確率を判断するヒューリスティックである。
3. × 一文目は妥当である。基本的帰属錯誤(基本的帰属のエラー)は, 自己ではなく, 他者の行動の原因を推測する際に生じる。
4. × 一文目は妥当である。内集団びいきは, 初対面の人どうしの集団でも生じる。最小条件集団の実験を想起すること。
5. ○ いわゆる「シロクマ効果」である。「ステレオタイプ抑制のリバウンド効果」の実験(McCrae, C. N. et al., 1994)がよく知られる。そのメカニズムである「皮肉過程理論」も再確認しておくこと。

No. 100 次の記述のうち, A, Bに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

正答: 1

解説: 知能の鼎立理論でも有名な, Sternberg の恋愛の三角理論からの出題である。英文がある程度読めれば, 常識の範囲で単語が入る。恋愛の三要素とは, 「親密性, 情熱, コミットメント」である。

Sternberg(1986)から, 当該の表を以下に貼る。

Table 2
Taxonomy of Kinds of Love

Kind of love	Component		
	Intimacy	Passion	Decision/ commitment
Nonlove	-	-	-
Liking	+	-	-
Infatuated love	-	+	-
Empty love	-	-	+
Romantic love	+	+	-
Companionate love	+	-	+
Fatuous love	-	+	+
Consummate love	+	+	+

Note. + = component present; - = component absent. These kinds of love represent limiting cases based on the triangular theory. Most loving relationships will fit between categories, because the various components of love are expressed along continua, not discretely.

文献: Sternberg, R. J. 1986 A triangular theory of love. *Psychological Review*. 93. 119-135.